



令和8年5月22日
旭川開発建設部

十勝岳の噴火による「大正泥流」の発生から100年

～再び大きな被害を繰り返さないために関係機関が連携した取組推進～

1926年5月24日、十勝岳の噴火により発生した融雪型火山泥流「大正泥流」は、美瑛町および上富良野町において、死者・行方不明者144名という甚大な被害をもたらしました。

本年はこの災害から100年の節目を迎えます。

この災害の教訓を風化させることなく後世に伝えていくこと、また、将来にわたり同様の被害を繰り返さないよう、関係機関と連携しながら十勝岳の噴火対策に取り組むとともに、各種企画の実施やSNSによる情報発信などを通じて、十勝岳の噴火リスクや防災対策に関する周知・啓発を進めていきます。

【取組内容】

- 大正泥流100年ロゴの作成・使用
- 大正泥流から100年 ～大正泥流を次の100年に伝える～ チラシ作成配布 【別紙1】
- 大正泥流に関連するカードの作成・配布 【別紙2、別紙3】
- 美瑛町、上富良野町民向け砂防施設見学会の開催
- 大正泥流100年 SNS アカウントの開設 など

【大正泥流100年をつなぐ会】

美瑛町、上富良野町、十勝岳ジオパーク推進協議会、北海道 上川総合振興局 旭川建設管理部、林野庁 上川中部森林管理署、気象庁 旭川地方气象台、北海道開発局 旭川開発建設部

【問合せ先】 大正泥流100年をつなぐ会

国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部

旭川河川事務所 副所長 谷瀬 敦 (0166-48-2131)

上席専門官 三上 紘輝

旭川開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/as/>

旭川開発建設部公式 X (旧 Twitter) アカウント @mlit_hkd_as

大正泥流100年 X (旧 Twitter) アカウント @taisho_mud_100



旭川開発建設部 HP



大正泥流100年 X アカウント

大正泥流から100年

～大正泥流を次の100年に伝える～



大正泥流による鉄道被害



大正泥流による住宅被害



1988年噴火を契機に実施した
ブロック堰堤の整備



1988年噴火の様子



尻無沢川の流路工整備状況



砂防施設による流木捕捉状況



富良野川の砂防施設整備状況



治山施設の整備状況



大正泥流による市街地被害

1926年に発生した大正泥流から100年の節目を迎えるにあたり、改めて犠牲となられた方々への深い追悼の意を表します。

あわせて、この災害の教訓を風化させることなく、将来にわたり同様の被害を繰り返さないため、関係機関がそれぞれ実施してきた防災・減災の取組を共有します。

これらの取組を通じて、次に想定される噴火や災害に対する備えを一層強化していくことを目的とします。

【大正泥流100年をつなぐ会】

美瑛町、上富良野町、十勝岳ジオパーク推進協議会、北海道 上川総合振興局 旭川建設管理部、林野庁 北海道森林管理局 上川中部森林管理署、国土交通省 気象庁 旭川地方气象台、国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部 旭川河川事務所

【問合せ先】

北海道開発局 旭川開発建設部 旭川河川事務所 副所長 TEL：0166-48-2131

大正泥流100年の取組

1. 様々な企画の実施

追悼式や大正泥流に関連する施設を巡るツアーなど、大正泥流や火山噴火対策に関する周知・啓発の取り組みを行います。

2. 情報発信の実施

大正泥流を後世に伝えるため、各地で企画を実施するとともに、SNSを通じた情報発信を行います。

3. 大正泥流に関連するカードの配布

大正泥流と同規模を想定して対策を進めている砂防施設など、大正泥流に関する情報を掲載したカードを大正泥流に関連する場所で配布します。

01 様々な企画の実施

2026年に「大正泥流」から100年を迎えました。十勝岳は今も火山活動を続けており、いつ噴火が起きてもおかしくない状況です。大正泥流の出来事を後世に伝えるため、大正泥流や火山噴火対策に関する周知・啓発の取り組みを行います。

企画名	開催時期	実施機関	開催場所
十勝岳大正泥流被災100年追悼式	5月24日(日) 16:00～	上富良野町	保健福祉総合センター「かみん」多目的ホール
防災施設をめぐる美瑛町大正泥流100年ツアー	6月28日(日)	美瑛町	美瑛町内ほか
バスで行く！十勝岳 火山からまちを守るしくみ探検	7月 5日(日)	上富良野町、北海道、気象庁	上富良野町内ほか
十勝岳大正泥流被災100年事業特別講演会	9月12日(土)	上富良野町	保健福祉総合センター「かみん」多目的ホール
砂防シンポジウムでの取組紹介	2月予定	北海道開発局	調整中

※取り組みの詳細はSNSアカウントにて発信いたします。

02 情報発信の実施

大正泥流から100年を迎えたことを踏まえ、SNSを通じて、各地で実施される企画の実施状況や大正泥流を後世に伝えるための情報発信を行います。

また、関係機関の企画や広報に共通で活用可能なロゴを作成し、一体感をもって取り組みを進めていきます。



大正泥流100年
Xアカウント
二次元コード



共通ロゴ
(グレー、ブルーの2色)

03 大正泥流に関連するカードの配布

大正泥流と同規模を想定して整備が進められている砂防施設等、大正泥流に関連する施設の概要や役割を紹介したカードと、これらを収納する台紙と併せて配布します。

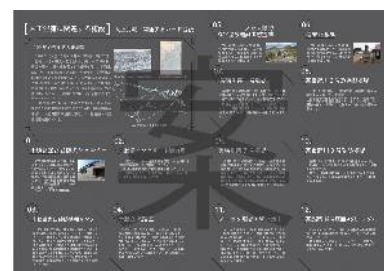
配布期間：2026年6月末～2027年5月下旬まで

配布場所：十勝岳火山砂防情報センターなど
※配布場所の詳細についてはSNSアカウントにて発信いたします。

※配布場所については都合により変更となる場合があります。



大正泥流に関連するカード



カード台紙

【大正泥流に関連する施設】 大正泥流に関連するカード台紙

100年を迎える大正泥流

1926年(大正15年)5月24日午後4時17分、十勝岳で大きな噴火が起きました。山の一部分が崩れ、高温の岩が大量に流れ落ちる「岩屑なだれ」が発生しました。詳細なメカニズムは不明ですが、岩屑なだれは残っていた雪を溶かし、すぐに大量の泥流となって木々を巻き込んで川を下り、わずか25分で麓の街に到達したと推察されています。木々を巻き込んだ泥流は川からあふれ、周囲に広がり、まち全体に大きな被害をもたらしました。

十勝岳周辺では、大正泥流で亡くなられた方を追悼するための追悼碑を設置するとともに、関係機関が連携し、大正泥流と同規模を想定して、融雪型火山泥流対策を進めています。



流木の海となった上富良野市街地



大正泥流発生当時の天気図



大正泥流にまつわる施設の位置

05. 大正大爆発 丸谷温泉遭難者慰霊碑

大正15年(1926)5月24日、十勝岳大爆発に遭遇し、この地では3名が一瞬にして山津波に巻き込まれ死亡。温泉はもとより、施設とともに潰滅した。



06. 追善記念碑

大正15年(1926)5月24日、十勝岳が大爆発した。積雪が溶け火山泥流が発生し、144名の尊い人命とともに、家畜も大きな被害を受けた。



07. 美瑛川第1号堰堤

美瑛町第1号堰堤は1988(昭和63)年10月に堰堤高11mで整備しましたが、同年12月に十勝岳噴火が発生したため、堰堤高を17.5mに嵩上げし、泥流を流す水通し断面を大きくして巨礫や流木を捕捉するスリットを設置するとともに、泥流が氾濫しないように左岸側に泥流堤を設置する等の堰堤機能の強化を行いました。

08. 富良野川2号透過型堰堤

大正15年に発生し上富良野町、美瑛町に甚大な被害をもたらした大正泥流。この泥流規模を設計に反映した結果、堤長917mの世界最長の透過型堰堤となりました。使用した鋼材の重さは3,810tで札幌テレビ塔の約4個分の重さです。

01. 十勝岳望岳台防災シェルター

突発的な噴火による噴石から身を守るための緊急避難施設(避難シェルター)である。非常品や食料などを備蓄しているほか、非常用発電機も設置されており、即時救出が困難な場合には、一時滞在施設としての機能を備えている。

※12月～4月下旬は閉鎖



02. 十勝岳コンクリート導流堤

大正泥流による大規模災害を想定した地域防災対策総合事業として実施しました。令和4年度に林野庁長官賞を受賞しました。十勝岳コンクリート導流堤は、延長129m、高さ6.0m、体積1,974m³です。

09. 美瑛川第7号堰堤

美瑛川第7号堰堤は、十勝岳の噴火時や豪雨時に美瑛川を流下する泥流をせき止め、泥流の勢いを弱める役割を果たす堰堤です。本体コンクリート部と左岸ソイルセメント袖部の堤長は989.38mにも及び、苦小牧川の高さ3m長さ1,074mの土堤の遊砂地が2017(平成29)年に完成するまでは、堤長日本一でした。

10. 富良野川3号砂防堰堤

堤高18m、貯砂量195万m³(札幌ドームの約1.2個分)は、北海道が管理する砂防ダムとしては最大規模です。1973～1984年に造られた旧3号ダムを活かしながら改良し、多段落差重力式コンクリート堰堤としました。

03. 十勝岳火山砂防情報センター

1988(昭和63)年の十勝岳噴火を契機に、噴火や泥流の発生を監視するワイヤーセンサー、振動センサー、火山監視カメラ、雨量積雪計などが設置されました。十勝岳火山砂防情報センターはこれらすべての情報を集め、十勝岳の火山噴火に対する監視を行うと共に、警戒避難情報を地域住民等へ迅速・正確に伝達することを目的としています。噴火及び泥流の発生が予測される場合には、前線基地となり、周辺地域の指定避難所としても機能するように整備されています。

04. 十勝岳流路工

1926(大正15)年に発生した泥流は、現在の白金温泉の温泉街をあふれるように流れました。十勝岳流路工は、十勝岳から発生した泥流が川からあふれ出ないように泥流の流れをコントロールし、安全に下流へと流すことを目的としてつくられました。また、流路工の上流には、泥流の流れる勢いを弱めるため、砂防堰堤が3基作られています。

11. ブロック堰堤(青い池)

ブロック堰堤は、1988(昭和63)年12月に十勝岳が噴火した際に、泥流対策として緊急的かつ暫定的に、コンクリートブロックを使用して、1989(平成元)年6月からわずか6ヶ月という短期間で建設した堰堤です。その後ブロック堰堤の左岸袖部の背後に美瑛川の流水がたまり、「青い池」ができました。「青い池」は美瑛町の観光スポットとして人気が高まっています。

12. 富良野川4号底面スクリーンダム

このタイプのダムは、国土交通省松本砂防事務所、富士砂防事務所等で建設され、その効果が実証されています。富良野川4号底面スクリーンダムは、堤高5m、堤長123m、スクリーン部40m、長さ30m、スクリーン間隔40cmです。

